

小野区 町民と議員のタウンミーティング報告

日時：令和 7 年 11 月 14 日（金）18：30～

会場：小野農民研修センター

参加人数：小野区民 11 人・議員 8 人

報告者：牛丸圭也



舟橋議長挨拶：このタウンミーティングは、6 年前に、従来の役場での議会報告会では町民参加が難しかったため、各区を回って多くの声を聞くために始めた企画。小野区は 2 回目。今後は違う形式で意見を聴取する会を作りたい。特定のテーマは決めず、小野区の課題、辰野町への意見、街づくりに関する考えなど、忌憚のない意見交換を希望。

小野区長挨拶：タウンミーティングは令和元年に小野区から始った。地域の課題や議会、町への提言、要望を自由闊達に話してほしい。

小野区の人口は 11 月 1 日現在で 1,614 人（男性 777 人、女性 837 人）。65 歳以上は 773 人。高齢化率は 47.9%。4 月 1 日以降の出生数は 5 人。

20 年後には小野区の人口が 1000 人を切る予測。推計でも児童生徒の減少は明らか。

R7 年度の出生数が 8 人と、一桁の危機感から両小野地区独自で学校のあり方検討委員会が始まった。

【移住・空き家対策と学校教育のあり方】

区民：人口減少は全国的な課題だが、町内の場所によってはＩターンで人口を増やしている。

辰野町、特に小野区の移住者の状況を知りたい。

議員：県の移住モデル地区になっている川島は移住者が多いが、元々の住民と移住者との意識の違いという課題もある。

議長：町内で人口が増えている区はない。移住者が多い区はあるが、町全体の減少率が他の市町村に比べて急激。これをいかに緩やかに抑えるかが今後の課題。南箕輪村も人口増加を経験したが、既に減少に入っている。

区民：移住してくる方は戸建ての一軒家を借りたいというニーズが多い。戸建ての借家と賃貸アパートの確保が重要。

議員：町でも空き家対策を進めており補助制度はあるが、持ち主が先祖伝来のものを処分したくないなどの理由で積極的に貸してくれる物件が不足している。不動産業界とも連携し、物件確保に努めている。辰野暮らしを体験できるお試し移住の物件はある。

区民：３年前に東京から移住。小野区は移住者が増えている。カフェを経営しているが、小野は移住者からの注目度が高いと感じる。「すぐ入れる家」やお試し住宅の要望が多い。若い夫婦の移住＝子どもの教育となるため、学校教育のあり方を見直すべき。人数ではなく内容が重要。フリースクールや山村留学のような新しい教育の形も考え、教育を考え直すためにも学校を残すべき。

副議長：あり方検討委員会で検討中。従来の考え方にとらわれず、地域に合うものを模索している。

区民：議会はもっと革新的に波風を立てるべき。町活性化には子どもを集めることが最優先。町長がかつて提案した特色ある学校（例：小野は自然科学）のような革新的なアイデアを議会で練り、全国にPRすべき。また、高齢化による活力低下を防ぐため、共施設を統廃合し、小学校などに集約することで、子どもから高齢者までが交流できる「地域の家」のような場所を作るべき。高齢者の孤立防止にもつながる。

副議長：学校のあり方は多様な形を検討している。活性化のためには、議員が「暴れる」（革新的な行動）ことが必要。地域住民の力、町、議会の三位一体で活性化を目指す。

議員：個々の子どもに合った環境（小野、川島、辰野町それぞれの特色）の学校作りが必要。

区民：辰野町は塩尻や箕輪への通勤圏内、居住地としての魅力を PR する集人方法もあるのではないかな。

【産業・商業誘致と地域課題】

区民：工場誘致は非常に大事。辰野町は松本・諏訪・飯田の真ん中で立地は良いが、広い土地がない。また、移住者のためにも、働く場所と商業施設（小野区は買い物に塩尻や辰野町中心部へ行く必要がある）が必要。

議員：工場誘致や住宅建設が難しいのは、辰野町が農振地（農業振興地域）が多いため。この方針を町のために見直す必要がある。小野区の魅力を伝えることも必要。

区民：今の若い世代の働き方はリモートワークなど多様化しており、大きい会社でなく、空き家でもビジネスができるような小さい会社を多く誘致すれば、地域に負担なく発展できる。インターネットを使ったビジネスをする人たちは場所を選ばず、田舎に住みたいというニーズもある。

議員：自身も移住者。大きな企業に勤めていて、都会の暮らしにくさから辰野に来た人が多い。「むらとしょ」のような場所が、多様な年齢層が交流できるオフィスのな使い方ができる拠点となることに期待。また、地域住民が移住者を地域活動に引っ張り出すことも大切（例：草刈り、祭りなど）。

小野区長：北小野との比較として、小野保育園の年長園児が 3 人（予定 4 人）に対し、北小野は 10 人。若い世代が北小野の方にいる傾向。また、小野区内の分譲地が売れないのは、「塩尻市民でいたい」というネームバリューによる辞退例もある。来年に向け、子どものいる世帯には土地を無償で提供するよう町へ要望を出した。

区民：子どもの頃に比べて地域行事（花火大会など）が減り寂しい。また、畑で鳥獣被害（熊、鹿など）があり、電気柵などの対策に公的な援助がほしい。

議員：行事の減少は、大人の手間を省くためという面があり、寂しいが、子どもの減少で PTA の負担増となり、バランスを取るのが難しい。しかし、子ども目線で学校運営を考えるべき。電気柵については、区からの要望書提出で、補助金を活用できるよう対応したい。

小野区長：小野区全体を網羅する電気柵は難しく、部分的な申請が多い。飯沼では 10 数年

経った電気柵の入れ替え申請も出ている。管理ができていないと効果がないという課題もある。国は大きなエリアの電気柵設置に対して手厚く補助（事例では 1000 万円以上）しており、申請すれば 2 年後には設置できる状況。

【公共施設・インフラと町の将来像】

区民：「まるで（カフェ）」の賑わいは良い。「むらとしょ（新しい施設）」はプレオープンの段階だが、多くの人が集まり、図書館や本屋があるのが良い。しかし、冬場の暖房不足や駐車場不足（前の畑の活用など）が課題。近所の子どもが学校帰りに寄って宿題をするなど、良い居場所になっている。介護予防センターも利用者が多く、職員が常駐していて使い勝手が良い。高齢者（特に男性）も参加できる活動の増加に期待。

区民：リモートワークでこちらに住みたいという人がいる。一旦出て行った子どもたちが戻ってこれるような環境整備が嬉しい。空き家を買って移住した年配の方の例もある。孫が不登校になった経験から、少人数の学年ではトラブルの影響が大きい。フリースクールやサマースクールの考えには賛成で、子どもが行ける環境整備を望む。

区民：町長選で公約に挙がっていた道の駅や温泉、スマートインターなどの実現可能性について知りたい。また、今後は町から積極的な提案を示し、それに対して意見を言うという双方向のやり方を望む。意見が言いっぱなしで終わらず、一つでも二つでも進む実感が必要。県営住宅（保育園前）に空き部屋が多く、予算の問題で改修が進まない。大きな事業だけでなく、地道で具体的なところに予算を振り向けるべき。人口推移は関係人口や 2 拠点生活の視点も含めて捉え直すべき。

議長：道の駅、スマートインターは町長公約だが、道の駅は計画から非常に大変で、これから調査を進め、実現可能性を探る段階。どういう町づくりをしたいのかという方針が最初に必要。

南箕輪村は子育て世代に優しい政策などの方針が明確だったから人口が増えた。町長公

約は財政的な理由で実現はできないものが多い。

議員の役割は、町民の意見を伺うことと、財政を見て実現可能か、効果があるかを検討すること。学校の統合（方向性）や高齢者福祉など、どこにフォーカスするかを町民のアドバイスも得ながら進めていきたい。

区民：1年前に移住。今は賃貸物件待ちで下辰野に住んでいるが、小野に戻りたい。地域おこし協力隊として「むらとしょ」の運営に携わっている。移住はとても楽しいが、同世代（20代・30代）の小野出身者と交流する機会が少ないのが課題。地区の皆でその地区の良さと共有する場のような機会を小野でも設けたい。

区民：スマートインター新設の公約については明確に反対の意思を示したい。地質が脆く豪雨災害のリスクがある。伊北インターも近いので不要。

教育委員会に、油屋保存会の活動への予算を要望。展示会などで地域を盛り上げているが、ほとんど持ち出し。最低限の備品（机など）の整備を希望。

議員：スマートインターについては、賛否両論あるため、今後議会でも議論していく。

区民：道路整備などの要望は時間がかかり中止になることが多い。道の駅やスマートインターといった大きな事業だけでなく、実質的な生活向上につながるインフラ整備を重点的に進めることが活性化につながると思う。

【まとめ】

小野区長：区民の参加者が少なかったが、全員から貴重な意見や要望が出て、議員に聞いてもらえた。3期目の武居町政ははツッコミどころが満載のようなので、12月定例会も自由闊達な議会運営をしてほしい。議会も区もいい町にできるよう取り組みたいものだ。